

神奈川県公立高等学校入学者選抜学力検査模擬

第一回

Ⅱ 国 語

注 意 事 項

- 1 開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題は **問五** までであり、1 ページから **14** ページに印刷されています。
- 3 解答用紙の決められた欄に解答しなさい。
- 4 数字や文字などを記述して解答する場合は、解答欄からはみ出さないように、はつきり書き入れなさい。
- 5 マークシート方式により解答する場合は、選んだ番号の ○ の中を塗りつぶしなさい。
- 6 解答用紙にマス目(例:

--	--	--	--

)がある場合は、句読点などもそれぞれ一字と数え、必ず一マスに一字ずつ書きなさい。なお、行の最後のマス目には、文字と句読点などを一緒に置かず、句読点などは次の行の最初のマス目に書き入れなさい。
- 7 終了の合図があったら、すぐに解答をやめなさい。

受 検 番 号							
番							

問一 次の問いに答えなさい。

(ア) 次の a ～ d の各文中の——線をつけた漢字の読み方として最も適するものを、あとの 1 ～ 4 の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

- | | | | | | | | | |
|---|-------------|----------|---|------|---|-------|---|------|
| a | 斬新な発想に感心する。 | (1) ぜんしん | 2 | ざんしん | 3 | こんしん | 4 | せんしん |
| b | 顕著な功績を残した。 | (1) けんちょ | 2 | とうちょ | 3 | ちようちょ | 4 | たんちょ |
| c | 詮索はやめる。 | (1) ぜんさく | 2 | こうさく | 3 | せんさく | 4 | たんさく |
| d | 運命に身を委ねる。 | (1) おも | 2 | たず | 3 | ゆだ | 4 | たば |

(イ) 次の a ～ d の各文中の——線をつけたカタカナを漢字に表したとき、その漢字と同じ漢字を含むものを、あとの 1 ～ 4 の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

- | | | | | | |
|---|-----------------|---|--------------|---|------------------|
| a | ケイカイな足取りで歩く。 | 1 | 電車のモケイを作る。 | 2 | 穴のチヨツケイを測る。 |
| b | コウリツ的なシステムを考える。 | 3 | この問題をケイシしない。 | 4 | 嚴重にケイカイする。 |
| | | 1 | 名所をカンコウする。 | 2 | 休暇をユウコウに使う。 |
| | | 3 | 親コウコウをする。 | 4 | この地域ではノウコウがさかんだ。 |

c ストープにトウユを補充する。

- | | | | |
|---|-------------------|---|---------------|
| 1 | 友人とトウゲイを楽しむ。 | 2 | ヨトウが議席を減らす。 |
| 3 | 暗くなり家のガイトウに電気がつく。 | 4 | 優秀な人材をトウヨウする。 |

d 詳しい説明をハブく。

- | | | | |
|---|------------|---|-----------------|
| 1 | 心からハンセイする。 | 2 | パーティーにシヨウタイされる。 |
| 3 | セイジツに回答する。 | 4 | 大人数で歌をガツシヨウする。 |

(ウ) 次の俳句を説明したものとして最も適するものを、あとの 1 ～ 4 の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

空をゆく一とかたまりの花吹雪

たかの
高野 素十

- 1 強い風が吹く中で、のぞきこむように見上げた空の様子について、「空をゆく」という表現を用いることで、雲ひとつない空の青さと美しさを表現している。
- 2 春の空の下で数多くの花びらが舞い散っている動的な様子を体言止めを用いながら描き出し、風で空に舞い上がる花びらの美しさを写實的に表現している。
- 3 春の空を背景に、目の前で花びらが突風によって激しく舞う様子について、切れ字を用いることで、花びらが散ってしまうという感傷的な思いを表現している。
- 4 「一とかたまり」という言葉を用いることで、季節のめぐる早さとはかなさの両方の様子を幻想的に描き、春という季節の移ろいやすさを表現している。

問二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

植物学研究者をめざす大学院生の「本村紗英」^{もとむらさえ}は、シロイヌナズナ(葉っぱ)の研究に没頭しているが、『葉っぱの謎』に迫るための実験は苦難の連続で、成功するかどうかもわからない。そんな実験の日々を過ごしている「本村」と、彼女のまわりにいる仲間たちとの間に繰り広げられた、ある日の研究室での場面である。

もうやだ、考えたくない。でも、やるしかない！ この種のなかに四重変異体^(注)がありますようにと、祈るしかない……！

¹ 科学者にあるまじき神頼みの境地に達した本村は、ピンセットを持ったまま両手を高く掲げ、栽培室の天井を仰いだ。椅子に腰かけてはいるが、映画『プラトーン』のポスターみたいなポーズである。ちまちました種を採りつづけ、ちょっとおかしくなっていたのだろう。

おもむろに手を下ろし、再びシロイヌナズナに向き直った。ふと自身の指さを眺める。爪は極限まで短く切つてある。

爪のあいだに種が挟まると混入^{コンタミネーション}のおそれが高まるからだ。もし机のうえに、今回の交配作業とはまるで関係のない、べつの変異株の種が落ちていたとしたら。それがふとした拍子に爪に挟まり、交配の結果できた種とともに、エッペンチューブ^(注)のなかに混入してしまつたら。すべてがおじゃんだ。「コンタミ(混入)」という単語を思い浮かべただけで、本村の全身は水から上がった犬みたいにぶるぶる震える。混入を避けるため、種採りのまえには机上を念入りに掃除するし、松田研究室^{まつだ}の面々で爪をのばしているものはいない。

飾り気のない爪は、理学部B号館二階の栽培室に籠もり、長机に向かってひたすら種を採る自分を象徴するようだ。本村は思わずため息をついた。

シロイヌナズナはこんなにたくさん、次代へと命を継ぐ種を生みだしているのに。シロイヌナズナを交配させた当の私はというと、かわいらしいネイルアートをしてもらうでもなく、一般的には「無味乾燥」と表現されそうな日々を送っている。いえ、いいんだけど。どうしてもネイルをしたいわけじゃないし、研究に打ちこむ毎日、私にとってはまったく無味乾燥ではないのだけれど。でも、ただただ種を採っていると、過度な集中力がかえって余計な想念を呼ぶというか、「なにしてんだろ、私」²とあせりと迷いが生じるというか……。

気がついたら本村は、「ふっふっふっ」と一人で声を出して笑っていた。ここ数日、せっせと種を採りつづけていたせいで、やっぱりちょっとおかしくなっていたのだろう。

なにしろシロイヌナズナは成長が速く、発芽から種採りまでのサイクルが二カ月ほどと短い。時間差をもうけて発芽させても、今日はこっちの株、明日はあっちの株と、どんどん種採りの頃合いになる。めまぐるしいことこのうえない。しかも、極小の種を相手にしていると、眼精疲労と岩盤^{いわま}のごとき肩凝りのせいで、頭に血がまわりにくくなってくる。妙な精神状態に陥るのも当然である。

³ おかしくもないのに、「ふっふっふっ」と笑い声を栽培室に響かせていたら、

「大丈夫?」

と声をかけられた。びっくりして振り返ると、ドアが細く開いていて、隙間から岩間^{いわま}が顔の半分だけ覗^{のぞ}かせている。

「大丈夫です」

本村はあわてて答えた。「ここ、使いますか？」

「ううん。もうお昼なのに研究室に戻ってこないから、様子を見にきたんだけど……」

そう言いつつも、岩間は栽培室に入ってこようとしない。ドアの隙間から、おそろおそろといったふう
に本村をうかがうばかりだ。

「いま、笑ってたよね？」

「笑ってません」

本村はぶぶぶと首を振った。

「うそ、笑ってたよ。なんか不気味な声が廊下まで漏れてた」

怯える岩間を安心させるために、

「休憩しようかな」

と本村は強いて明るい声で言った。ピンセットを筆箱にしまい、種を収めたエッペンチューブの蓋を閉める。

「そうそう、それがいい。お弁当食べよう」

岩間はホッとしたようにうなずき、ドアを大きく開けた。「朝からずっと籠もりきりで、おなかすいたでしょ」

気づかってくれる先輩の存在をありがたき思いながら、本村は二階の栽培室を出て、岩間とともに三階の松田研究室へ戻った。

研究室では川井と加藤が、大机に向かってカップラーメンを食べていた。吸引力が売りの掃除機みたいな勢いで麺を吸いこんでいる。しかも二個ずつ食すつもりらしく、湯を注がれた待機状態のカップラーメンが、二人の手もとにそれぞれ置いてあった。もはや秋も過ぎたというのに、大変な食欲だ。

衝立の奥に気配はなかった。松田は学食にでも行ったのだろう。あるいは、諸岡と弁当を食べているのかもしれない。本村は以前、松田と諸岡がY田講堂まえの芝生広場で、仲良く弁当を広げているのを目撃したことがある。声をかけたら、「諸岡先生の奥さまが作ってくださいました」と、松田はうれしそうに言った。愛妻弁当のご相伴にあずかる男。謎である。当の松田が既婚者なのかどうかも、本村たちは知らない。

本村はヤカンで湯を沸かし直し、岩間のためにコーヒーを、自分のために緑茶をいれた。持参した手作り弁当を大机に広げ、「いただきます」と箸を取る。岩間も隣で、コンビニのサンドイッチを食べはじめた。

向かいの川井と加藤が、二個目のカップラーメンに取りかかる。あいかわらず「ずぞぞーっ」と激しく麺を吸引しながら、

「どう、調子は」

と川井が尋ねてくる。器用だ。

「まだ半分も採れてないです」

「目標は千二百粒でしたっけ？」

加藤も麺を吸引しつつ、「うぎゃー」という表情になった。器用だ。

「本村さんは細かい作業に向いてるからいいですけど、俺には無理だなあ。そもそも、そこまでして目的の四重変異体が不稔だったら、どうするんですか？」

不稔とは、種ができないことだ。変異株同士を掛けあわせると、そういう株ができるケースもしばしば

ある。

そうだ、不稔という可能性も考慮に入れなければならなかった。本村は、「がびーん」という文字が百個ぐらい頭に落ちてきたような気持ちになった。

「縁起でもないこと言わないの」

と、岩間が加藤をたしなめる。

「すみません。でも千二百粒のなかにいくつ四重変異体の種があるかだって、ほとんどクジ運が重要になってくるような領域じゃないですか」

⁴「だから、なんでそういうこと言うのよ」

岩間が怒り、「まあまあ」と川井がなだめる。本村は頭に乗った百個ぶんの「がびーん」という文字の重みで、床にめりこみそうな気持ちになった。自慢ではないが、本村のクジ運は悪い。商店街の福引きでも、参加賞の飴玉あめだましか当たったことがない。

「すみません、すみません」

しょんぼりした本村を見て、「しまった」と思ったらしい。加藤は怒濤どとうのようにフォローの言葉を繰りだしてきた。

「いや、おもしろい実験だと思っているのはほんとなんです。千二百株もシロイヌナズナを育てるのは大変でしょうから、種を播く段階になったら手伝いますよ。ほら俺、植物を育てるの得意なんで」

「私も手伝うから、遠慮なく言って」

ハムサンドをかじりながら、岩間も申し出てくれた。

「僕は加藤くんとかがって、細かい作業もわりと好きだ」

と、川井が冗談めかして言った。「種採りだって、本村さん一人でやろうとしなくていいんだよ。実験はスピードも大切だからね」

「ありがとうございます」

加藤、岩間、川井に口々に励まされ、本村は少し気持ちが前向きになった。

本村の本日の弁当のおかずは、ウインナーに塩コショウを振って焼いたものと、ホウレン草と溶き卵を塩コショウで炒めたものである。味に大差ないうえに油っこいが、ちゃんと健康のことを考えて、白米にかけるためのゴマを持ってきた。

本村は弁当袋を探り、ラップで包んだゴマを出した。ところが、ラップが妙な具合にくっついており、ゴマの半分ぐらいを白米ではなく大机にばらまいてしまった。

大机に点々とちらばった黒ゴマを見て、

「コンタミ！」

と本村は叫んだ。必死になって落ちたゴマを拾い集める。

「落ちて着いて、本村さん」

と岩間が言った。「それはシロイヌナズナの種じゃなく、ゴマよ」

「コンタミしようがないほど、ゴマのほうがかいですから」

と、加藤も冷静な指摘をした。

⁵我に返った本村は、自分が怖くなった。種採りに熱中しすぎたせいで、黒くて小さな粒に即座に反応する体になってしまったようだ。

「ごめんなさい。私、少し変みたいで」

本村は赤面し、弁当を食べた。拾ったゴマは迷ったすえ、もったいないので白米にかけた。床に落ちたわけではないから、まあいいだろうと判断した。

「少しじゃなく、かなり変ですよ」

加藤がカップラーメンの汁を飲む。

「でも、気持ちはわかる」

と岩間がため息をつく。「植物の研究やってて、種採りしたことのあるひとは、ほとんどみんな経験してと思う。『ぎゃーっ、なにもかもが種に見える！ コンタミ注意！』って状態になっちゃうんだよねえ」

「お昼を食べたら、少し散歩でもしてくるといいよ」

擬似コンタミ騒動を黙って見ていた川井が、穏やかに提案した。「ちゃんと気分転換するのも大事だ。そのほうが、結局は集中力を取り戻せてはかどるから」

(三浦^{みうら} しをん「愛なき世界」から。)

(注)四重変異体Ⅱここでは、遺伝情報に異常のあるシロイヌナズナの種の一つのこと。

エッペンチューブⅡマイクロチューブのことで、容量が微量な試験管のこと。

(ア) — 線1「科学者にあるまじき神頼みの境地に達した本村は、ピンセットを持ったまま両手を高く掲げ、栽培室の天井を仰いだ。」とあるが、そのときの「本村」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 シロイヌナズナの種を採りつづけているうちに、もうどうでもいいや、という気持ちが強くなったことで、何もなくてもうまくいくようにと、強く願う気持ちになっている。

2 「コンタミ(混入)」に細心の注意を払いながらシロイヌナズナの種を採っているが、四重変異体があるかどうかはわからない状態の中、何かにすがろうとしている。

3 「本村」が調べているシロイヌナズナの種の中に、必ず四重変異体があるという確信を持つために、それを見つかるまで絶対にあきらめたくないという強い思いを持つとうとしている。

4 「コンタミ(混入)」と「不稔(種ができないこと)」の両方に注意しても四重変異体があるとは限らないという状況の中、気持ちを落ち着けることで疲れを吹き飛ばそうとしている。

(イ) — 線2「なにしてんだろ、私」とあるが、ここでの「本村」の気持ちをふまえて、この部分を朗読するとき、どのように読むのがよいか。最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 シロイヌナズナの種採りに集中すぎて、他のことを一切考えられなくなっていた状態から、はっと目覚めてこれではいけないと自分を叱責するように怒った口調で読む。

2 シロイヌナズナの研究のため、爪は極限にまで短く切っているのにネイルをしたくてもできない状態であったと急に気づき、今の状況を後悔するような思いを込めて読む。

3 シロイヌナズナの研究は続けたものの、あまりに研究に集中しすぎたためか疲れが出たので、休みたいという気持ちを表現するために、少し弱々しい口調で読む。

4 研究に集中しすぎた結果、無味乾燥と見られそうな自分を意識し、普通とは異なる生活を送っていることについて、これでいいのかと自分に問いかけるような口調で読む。

(ウ) —線3「おかしくもないのに、『ふっふっふ』と笑い声を栽培室に響かせていたら」とあるが、そのときの「本村」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 シロイヌナズナの種を採ることに飽きてしまい、今まで一生懸命やってきたことが急にばかしく思えて、全てを投げ出したくなってしまっている。

2 成長の速いシロイヌナズナに追われるように、常に種採りをしている状態が続き、精神的にも体力的にも限界が近づいてきてしまい、不安定な状態になっている。

3 シロイヌナズナの種が小さすぎて、いらいらが頂点に達したため、その気持ちをリセットするために無理にでも笑い、前向きな気持ちになろうとしている。

4 時間を忘れるほどシロイヌナズナの種採りに没頭している自分に驚き、このままではちゃんとした生活が送れなくなると自分にあきれた気持ちになっている。

(エ) —線4「だから、なんでそういうこと言うのよ」とあるが、そのときの「岩間」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「岩間」は植物の種採りの大変さを理解しているため、必死に種採りを行う「本村」に対して不安をおおるようなことばかりを言って落ち込ませる「加藤」に腹を立てている。

2 「加藤」が「本村」に、「本村」の研究の様子をしつこく聞いていたため、「本村」には昼食ぐらいゆつくりと食べさせてやりたいと思いい、「加藤」をたしなめている。

3 シロイヌナズナの種採りはただでさえ大変なのに、その労力が「本村」の努力不足によって全く報われなくなるといふ無神経なことを言った「加藤」を黙らせたがっている。

4 「加藤」の言葉は正しいが、「本村」に対して全く配慮がないばかりか、「本村」が落ち込んでいるのを面白がっている様子もみられ、それに「岩間」は怒っている。

(オ) —線5「我に返った本村は、自分が怖くなった。」とあるが、そのときの「本村」を説明したものとして、最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 シロイヌナズナの種に形状が似ているものを、無意識に全てそれだと反応してしまう今のおかしな精神状態は、自分や研究室の仲間に悪影響を及ぼしてしまうのではないかと思っている。

2 「コンタミ」を恐れるあまり、シロイヌナズナの種に似ているものは全てそれに見えてしまう今の精神状態を自覚したが、自分ではどうすることもできないという不安を感じている。

3 「コンタミ」を絶対にしてはいけないという緊張状態をずっと続けたことが、こんなにも自分を変えてしまったのだとわかり、研究を続けてきたことを後悔する気持ちになっている。

4 自分の意志とは関係なく「コンタミ」と叫んだことで、自分が何をするかわからないような精神状態になってしまったことを初めて知り、どうしてよいのかわからなくなっている。

(カ) この文章について述べたものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 毎日シロイヌナズナの種採りの実験ばかりをすることになったうえ、体の不調も感じて研究を始めたことを後悔するようになった「本村」の苦境を、直喩を多用した印象的な文体で描いている。

2 研究に打ち込む毎日を送っていた「本村」が、先の見えない研究をすることに疲れて、同じ研究室の仲間に研究を引き継いでほしいと願っている様子を、擬態語や擬音語を用いて描いている。

3 数日一人でひたすら種採りをしている間に妙な精神状態になってしまった「本村」が、同じ研究室の仲間に気分転換を促されるまでのことを、複数の人物の会話文を中心にテンポよく描いている。

4 松田研究室の仲間に自分の今の状態やクジ運のことまで指摘され、彼らと一緒に研究をすべきでなかったと思っている「本村」の打ちのめされた姿を、「本村」自身の回想を交えながら描いている。

問三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

科学が対象とする現象は、いつでも、どこでも、誰でも、それが再現できねばならない。繰り返し実験で同じ現象が生じることが確かめられなければ、普遍性があるとは言いがたいのだ。科学の客観性は再現可能性で保証されるのである。しかし、一回きりの現象も扱わねばならない場合が多い。宇宙の創成と進化、地球の生成と進化、生命の誕生と進化など、(特に歴史性を問題とする場合) 私たちは、一つの例しか知らないし、それを再現してやり直すわけにもいかない。A、¹ たまたまの偶然による巧い組み合わせで生じた現象なのか、物理法則に従って必然的な道をたどったのかは明らかではない。だから、一回きりの現象が科学の対象になるのかわからないのかの議論は、これまで何度も繰り返されてきた。

しかしながら、現代では、一回きりであつてもそれは必然的に生じた事象であり、研究するに値するという合意ができている。偶然のように見える事象であつても必然の過程から位置づけられるはずだから、徹底して必然性を追究すれば合理的に説明できるという考え方を採用しているためである。言い換えるなら、自然が歩んだ道は(一見偶然に見えるが)論理から外れた偶然はなく、すべて必然の範疇^{(注)はんちゆう}で説明できると信じているのだ。例えば、地球上における生命の誕生物語は、ある特殊な化学物質がたまたま偶然に出会って反応した結果としてではなく、さまざまな組み合わせが試された上での必然的な産物であるとみなし、それを調べることに傾注^{(注)けいちゆう}する。そうすれば偶然も必然のひとつとなる。宇宙論におけるビッグバンや地球科学におけるプレートテクトニクスも、そのような方向で研究され、² 現在では正統的理論として確立している。

^(注)そこに底流している信念は、「自然の一様性の原理」である。自然界の現象は一見するとバラバラに見え、たまたま例外事象が起こったかのようだが、そこには何らかの規則性があつて筋をたどることができ、またそうすることによって因果関係を明らかにできる、と考えるのだ。B、これは森羅万象^{(注)しんらかうまう}にわたって成立しているとは限らない。全く偶然に起こった事象が原因となつて結果を変えてしまう場合もあり、それを解きほぐすのは簡単ではない。しかし、³ 果敢に挑戦して何らかの辻褄^{(注)つづま}を合わせていくのが科学の営みなのかもしれない。

例えば、地球の衛星である月の起源については昔から論争があつた。地球と一緒に生まれた、地球が分裂した、他から捕獲したなど、いろんなアイデアが出されてきたのである。一個だけの月の存在だから、何らかの特異な事件が起こったのかもしれないし、惑星系の普遍的な現象で一個であることに意味がある可能性もある。例えば、水星と金星には衛星はなく、地球には一個、火星には二個、そのお隣の木星や土星には数十個もあるから、その系列として何らかの理由があると考えたくなる。偶然ではないだろう、と。しかし、単純に答は出さうにない。そこでとりあえず、月の物質組成や運動を調べて地球との類似性を探したり、長時間の軌道を追跡したりして、どのような過程が生じ得たかを研究する方法が採られている。そこに立脚する観点は、簡明であること(必要以上の複雑さを関与させない)、自然であること(人為的な要素が少ない)、他のプロセスと整合的であること(互いに矛盾しない)などであろうか。そこには科学者の美意識のようなものが入り込むから、必ずしもその観点に誰もが納得するわけではない。

現在のところ地球の表面が剥ぎ取られて月が生まれたとする説が有力だが、まだ定説とはいえない。地球の特異現象であるなら、他の惑星に適用できない(かもしれない)からだ。ともあれ、それらの研究を積み上げることを通じて徐々に理論として固まってくると期待しているのである。

⁴ 生物の進化論にもそんな要素がある。環境に最もよく適応し、最も多くの子孫を残すのに成功した種が栄えていくとするダーウィンの進化学説は確立している(必ずしも優れたものというわけではないことに

ご注意を)。とはいえ、偶然が重要な役割を果たした要素も多く残している。巨大な隕石が地球に激突して恐竜などが大絶滅したとされているが、そのような地球環境の異変は唐突に起こるのだから、生き残った原因として環境への適応が鍵であったとは言いがたいだろう。たまたまそのときに海中深くに潜っていた種が生き残れたに過ぎないかもしれない(とはいえ、それを証明することはできない)。そのような偶然の要素を含みながらも、大筋ではダーウィン学説が支持されているのである。

生物進化がゆっくりと少しずつ変わりながら進んだか(漸進説)、一定期間は少しも変化せずある段階で急に大きく変化したか(断続平衡説)が議論になった。生物進化の要因は常時的に生じている遺伝子の変異(突然変異)によるのだが、それによって徐々に形態が変化する場合もあるだろうし、変異が累積してある閾値を超えて初めて形態の変化に結びつく場合もあるだろう。それは種によってあるいは器官によって異なる可能性もある。この問題に決着をつけるためには、時系列が完全に揃った化石を手に入れるか、ゲノム全体にわたっての変異量の累積変化を調べる必要があるが、不十分な化石しか残っておらず、ゲノムは消失してしまっているから調べようがない。歴史資料がなければ推測するしかないという科学の限界もあるのだ。

個々の特殊要因を認めながらも、全体としての整合性を追究する分野は多くある。それらの分野では、いくつか例外事象を含んでいることを暗黙のうちに前提としていえると言えよう。その際、例外的な特殊例に固執して全体のシナリオまで否定してしまう研究者もいるが、それは「角を矯めて牛を殺す」結果になりかねない。また、特殊例と思っていたものが実は本質を表していたこともあるから、その判断は容易ではない。

南フランスで発見された古代人の洞窟画は、最初子どもの悪戯だと思われていた。多数の洞窟画が出てきたので本格的な調査が行われ(年代測定法が確立されて)、先史時代の遺跡だとわかったのだが、一例のみだったらどうなっていただろうか。逆に言えば、一例のみしか見つからないので打ち捨てられたままとなっているものはないのだろうか。宇宙通信の分野で、たった一例だけ自然現象ではないと思われる電波が受信された記録がある。しかし、その後類似の信号が一切ないため、偽信号であったとして無視されている。特殊例をどう評価するか、科学の限界が試されているのかもしれない。

(池内)了「科学の限界」から。

(注)範疇Ⅱ同一性質のものが属すべき部類、枠組。

傾注Ⅱあることに心を集中すること。

底流Ⅱ表面に現れていないが、根底に動いている勢いや感情。

森羅万象Ⅱ宇宙に存在する一切のもの。

閾値Ⅱ境界となる値。その値を境に、意味や条件、判定などが異なるような値のこと。

(ア)本文中の A・B に入れる語の組み合わせとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---|---|-----|---|-----|---|---|-----|---|-----|
| 1 | A | 例えば | B | また | 2 | A | もし | B | さらに |
| 3 | A | しかし | B | そして | 4 | A | だから | B | むしろ |

(イ)本文中の~~~~線Ⅰ「一回きり」と似た意味をもつ四字熟語として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- | | | | | | | | |
|---|------|---|------|---|------|---|------|
| 1 | 一日千秋 | 2 | 一意専心 | 3 | 一期一会 | 4 | 一言一句 |
|---|------|---|------|---|------|---|------|

(ウ) 本文中の……線Ⅱの「ながら」と同じはたらきをする「ながら」を含む文を、次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 よそ見をしながら運転してはならない。
- 2 彼は幼いながら色々なことを知っている。
- 3 我ながらうまくできたと思う。
- 4 日中は、真夏さながらの暑さになるそうだ。

(エ) ——線1「一回きりの現象が科学の対象になるのかならないのかの議論」とあるが、そのような議論が起きた理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 一つの例しかない場合、再現することができないため普遍性がなく、科学者からはたまたまの偶然と考えられてしまうから。
- 2 一回きりの現象では、実験によって再現してやり直すことができず、科学的な客観性によって判断することができないから。
- 3 一回きりの現象は、科学が現在までに解き明かしてきた物理的法則に従っていないため、論理から外れている事象だから。
- 4 一つしかない例は例外事象であり、そこには科学が求めている必然性がないので、研究する対象としては適していないから。

(オ) ——線2「現在では正統的理論として確立している。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 現代では、一回きりであつてもそれは研究に値する事象とされ、たとえ偶然のように見える事象でも、必然性を追究することで合理的に説明ができ、正統的理論として確立できるとされるということ。
 - 2 宇宙論におけるビッグバンは、ある特殊な化学物質が偶然に反応した結果ととらえられ、さまざまな組み合わせを試すことで必然性が発見できれば、正統的理論として確立できるとされるということ。
 - 3 地球科学におけるプレートテクトニクスは、自然の一樣性の原理に基づいて、地球上で起こった自然現象の原因は一つであると考えることによって、正統的理論として確立できるとされるということ。
 - 4 地球環境における生命誕生は、必然性を徹底的に追究して導き出した論理を用いて、偶然と必然の因果関係を科学的な視点から明らかにすることで、正統的理論として確立できるとされるということ。
- (カ) ——線3「果敢に挑戦して何らかの辻褄を合わせていくのが科学の営み」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 科学は、自然の一樣性の原理に基づいて、ある特殊な化学物質に対する実験を行い、いつ、どこで、どのような反応が見られるのかということの因果関係を検証していくものであるということ。
- 2 科学は、一見バラバラに見える自然界の現象も自然の一樣性の原理に基づき、たとえ偶然の事象によつて結果が変わつても、規則性を見出し、因果関係を明らかにするものであるということ。
- 3 科学は、森羅万象にわたつて合理的に説明できる事象のみを正統的理論とし、偶然起きた事象と必然的な事象との区別をする作業を繰り返して、因果関係を確かめていくものであるということ。
- 4 科学は、偶然の産物を扱うと研究結果を変えてしまう恐れがあるため、必然性が証明できるもののみを徹底的に追究することで、普遍的な事象の因果関係を確立していくものであるということ。

(キ) —線4「生物の進化論にもそんな要素がある。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 生物の進化論についても、偶然に起こった環境の変化の要素を考慮に入れなければならないため、仮説の妥当性を後から正しく検証することができないということ。

2 生物も偶然に起こった地球環境の影響を受けるため、科学が重視している再現性に乏しく、科学的に妥当な理論を構築していくことが期待できないということ。

3 生物の進化論の場合も月の起源についての議論と同じように、有力な説がありつつも偶然の要素を排除することができないため、議論の余地があるということ。

4 自然環境の変化だけでなく生物の進化も一度しか起こらない事象に起因することがあるので、共通する観点に基づいて研究を進めて議論していくということ。

(ク) —線5「科学の限界」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 すでに消失したか、数が極端に少ない資料しかない研究分野では、一度しか表れないような特殊例を追究していくことの判断は難しいが、それをどう評価するか検討していくということ。

2 全体としては同じ学説でも、そこに至るまでには、いろいろな進化があったと推測され、その一つ一つの自然現象に見合った歴史資料を丹念に調査していくことしかできないということ。

3 たった一例だけでも、本質を表していたという事例が多数見つかったので、現在では特殊な事例は全て研究対象となっているが、研究する人手や時間などが足りていないということ。

4 一例しか見つかからないような特殊例は偶然の事象であり、実験で再現できないので客観的評価ができないということから、研究対象としては値せず、論理から常にはずれてしまうということ。

(ケ) 本文について説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 現代の科学では、一回きりの事象を無視するのもやむを得ないという暗黙の了解があるが、大発見につながる可能性のある歴史的分野や宇宙分野に限って研究を行う必要がある。

2 現代の科学では、一回きりの事象も研究の対象とすることで、本来は科学で扱うべきではない事象も誤って対象としてしまう危険性があることを自覚しておかなければならない。

3 現代の科学では、偶然に起こった事象に固執して全体としての整合性を追究するために、研究者の主観による判断も研究内容に反映されていることが暗黙のうちに了解されている。

4 現代の科学では、一回きりの事象も研究の対象として取り扱っているが、その事象の取り上げ方は研究の内容やあり方に影響をおよぼすことにもなり、適切な判断は難しい。

問四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

神祇権(注)の少副(注)大中臣親守、年来大般若一筆書写の志ありけれども、むなしくてやみにけり。(口癖) 常のこと

ぐさに、「この願を心にかけて、一日に二枚ばかりづつ書きたてまつるとも、十余年にははてなん。(十余年かければ完成できるだろう) 口惜

しくも思ひたたぬかな。」といひけるを、前の権の大副同長家聞きて、忽ちに智發(悟つて)して、この願を思ひ立

ちて、終に一筆書写の功を終へてけり。供養(注)の後、随喜(激しい歓喜)のあまりに親守がもとに行きていひけるは、「こ

の事はもと我が思ひよりたるにもあらず。(思い寄つたものではありませんでした) 仰せられし旨(注)を聞きて、おのづから発願して大功をなしたる、

しかしながら御恩なり。かつはその事謝せんがために、ことさらまうできたるなり。」といひて対面した

るを見れば、ちひさき鬼三人、長家にしたがひてあり。その丈あかばかりなりけり。縁をのほりける時

は、二人庭にひざまづきてかしこまりけり。やがて二人はしたがひて上にのぼりてあり。一人は下にあり、

みな長家を守護するさまなり。かやうの事は、夢などにこそ見る事もあれ、まさしくうつつに見たる事は

不思議の事なり。大般若書写によりて十六善神の立ちそひて加護し給ひけるにや。たふとく目出たき事な

り。かの親守は、五部の大乘経(注)自筆に書きたてまつりたるものなり。まさしく正直のものにて、ながく虚

ことなどせざりしものなり。(などつかない人である) 「かかる不思議こそありしか。」とて、親守語りしを聞きてしるし侍るなり。

(古今著聞集)から。

(注) 神祇権 官職の一つで、祭祀を司るもの。

少副 貴族の位の一つ。

大般若 六百卷からなる『大般若波羅蜜多經』。

大副 貴族の位の一つ。

供養 ここでは、仏などに対して捧げ物をする事。

十六善神 『般若經』とその教えを心に留めている者を守護するとされる神々。

五部の大乘経 天台大師の智顗という人物が『法華玄義』の中で選んだ五部の經典。

(ア) —線1「仰せられし旨」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 たとえ一日に二枚であっても書きやすい部分から書写をしていくことで、大般若を全て自分の手で書き写すことが出来るということ。

2 一日に二枚の大般若の書写をする時間がなかったために、無為に時間を過ごしていくことになったことを残念に思っているということ。

3 たとえ一日に二枚であったとしても少しずつ書写をしていくことによって、六百巻に及ぶ長大な經典を全て書き写すことができるということ。

4 もし一日に二枚であっても書写を進めていく努力をしていたならば、十余年間の無為な時間が經典の書き写しに使えたのに残念だということ。

(イ) —線2「ちひさき鬼三人」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 赤ん坊のような姿をしており、「長家」を連れて現れ、一人が「長家」を守っている間に他の二人が「長家」と同じ行動をしている。

2 「長家」のそばに三人寄り添って現れ、赤ん坊のような見た目であるにも関わらず、一緒に「長家」を守ったり正座したりしている。

3 「長家」を守るようにして現れ、赤ん坊と同程度の背丈で、二人は「長家」に従っているが、一人はずっと下を向いたままである。

4 背丈は赤ん坊と同じくらいで、「長家」のそばに現れていて、二人は座っていたり縁を上ったりし、三人が「長家」を守るように行動している。

(ウ) —線3「たふとく目出たき事」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 大般若の書写を終えたため、「十六善神」が姿を表して「長家」に助言を与えたということ。

2 大量の經典を書き写したことによって、「長家」が「十六善神」の一員になったということ。

3 大般若を書き写し終えたことによって、神々が「長家」を守るようになったということ。

4 經典を書き写すという試練を突破したため、神々が「長家」を褒めたたえたということ。

(エ) 本文の内容と一致するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「長家」は、日頃から「親守」が話していたことを聞いて、大般若の書写を一人で成し遂げ、成し遂げられたことは「親守」の言葉のおかげだと感謝をし、「親守」のもとを訪れている。

2 「親守」は、大般若を書写したいという願いをもっていたものの成就することはできず、かわりに「長家」が叶えたことに対して嫉妬し、これまで言わなかった悪口を言うようになった。

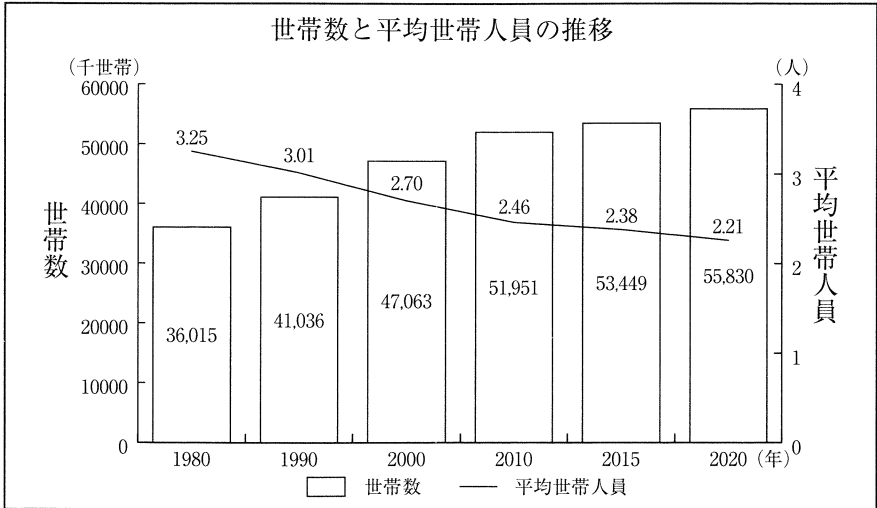
3 「長家」は大般若の書写に成功し、「親守」のもとを訪れたときに、正直者である「親守」の人柄に胸を打たれ、「親守」が五部の大乘經を書写するときに陰ながら手助けをした。

4 「親守」は大般若こそ書写できなかったが、大般若を写し終えた「長家」と対面したときに起こった出来事を不思議なこととして人に語るうちに、正直者として知られるようになった。

問五

中学生のAさん、Bさん、Cさん、Dさんの四人のグループは、「総合的な学習の時間」で行われる発表に向けて、「世帯数と平均世帯人員の推移」について調べ、話し合いをしている。次のグラフ、資料と文章は、そのときのものである。これらについてあとの問いに答えなさい。

グラフ



「日本国勢図会 2022/23」より作成。

資料

〔世帯〕
日本の世帯は、高度経済成長期以降に地方から大都市へと若年人口の移動が続いたことで、核家族世帯や一人暮らし（単独）世帯が増えた。近年は少子高齢化が進み、高齢者の一人暮らしが急速に増えている。二〇二〇年の国勢調査によると、六五歳以上の一人暮らし世帯は六七二万世帯となった。これは、六五歳以上人口のおよそ一九・〇％を占め、前回二〇一五年調査時の一七・七％を上回った。二〇二〇年現在、高齢者の五人に一人は一人暮らしという状況になっている。

（「日本国勢図会二〇二二／二三」から。）

Aさん 私たちのグループは、「世帯数と平均世帯人員の推移」を取り上げるということに決めました。

まず、世帯数と平均世帯人員の推移を表したグラフを見てみましょう。

Bさん はい。このグラフからは、 ということがわかります。

Cさん 興味深い結果ですね。なぜそのようなになっているのかを考えましょう。

Aさん 資料の文章を読んでみましょう。核家族というのは、夫婦とその結婚していない子どもから構成される世帯のことを指します。この世帯が高度経済成長期以降に増えたと書かれていますね。

Cさん 高度経済成長期は、一九五五年頃から七三年頃までを指しますね。この時期は、経済が急成長し、国内総生産を、物価の変動を考慮に入れた実質値で見えた場合、十％超も成長していたこともあるようです。生産は所得や支出と同値となるので、この時期は国民の所得が十％超伸びていたとも考えられます。

Bさん いい時代ですね。なぜこの時期には地方から大都市へと若年人口の移動が続いたのでしょうか。

Cさん それは、労働者の不足によるのだと思います。好況の時期は、需要が供給より多いため、ものを多くつくることができます。それだけ売ることができるからです。つまり、地方から都会に出てくる若年人口が多かったのは、都会で働き口を探すためだったということだと思います。

Bさん なるほど。経済成長をする時期にあって、人々の生活様式が変わってきたんですね。

Cさん そうだと思います。

Dさん 一人暮らしの世帯が増えたことについても考えてみましょう。資料には、高齢者の一人暮らしが増えたことが書かれています。

Bさん これは、核家族化との関連があると思います。つまり、それまでの価値観であれば、夫婦と子どもの他に、夫婦いずれかの両親とも暮らすことが普通でした。それが、核家族化により、夫婦の両親とは住まなくなりました。

Dさん その中で高齢者の一人暮らしの世帯が増えたということですね。

Bさん そうのことだと思います。

Dさん ただ、私自身は高齢化自体はいい傾向だと思いますよ。平均寿命が伸び、人が長生きできるようになったことを表すとも考えられます。

Bさん そういう見方もありますね。身近な人が長生きしてくれるのは、とてもうれしいことです。

Aさん 高齢者だけでなく、若年層の世帯についても考えてみましょう。先程は核家族化の話題が出ましたが、一世帯あたりの人数が変化した原因を他に何か思いつきますか。

Cさん はい。私は、未婚化や晩婚化が増えたということを聞いたことがあります。こういう理由から若者の一人暮らしが増えているとも考えられます。

Bさん それは、結婚に対する人々の考え方の変化を反映しているとも思いますし、生活様式が昔と異なっているからだとも思います。現在の社会には、さまざまな価値観や生活様式が生まれましたからね。

Aさん そうかも知れません。それでは、今日の話をまとめていきましょう。世帯数が増える一方で平均世帯人員が少ない原因は、 ということにあると考えられます。

(ア) 本文中の に入れるものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 一九八〇年と二〇二〇年を比べたとき、世帯数は二〇二〇年の時点で一九八〇年の数より五割程度増えており、平均世帯人員は二〇二〇年の時点で一九八〇年の数の約六割である

2 一九八〇年と二〇二〇年を比べたとき、世帯数は二〇二〇年の時点で一九八〇年の数より二千万世帯以上増加し、平均世帯人員は二〇二〇年の時点で一九八〇年の数より三割程度減っている

3 一九八〇年と二〇二〇年を比べたとき、世帯数は二〇二〇年の時点で一九八〇年の約百六十パーセント以上となり、平均世帯人員は二〇二〇年の時点で一九八〇年の数の約七十パーセントに減っている

4 一九八〇年と二〇二〇年を比べたとき、世帯数は二〇二〇年の時点で一九八〇年の数の一・五倍以上となり、平均世帯人員は二〇二〇年の時点で一九八〇年の数に対して一人以上減っている

(イ) 本文中の に適する「Aさん」のことを、次の①～④の条件を満たして書きなさい。

① 書き出しの「世帯数が増える一方で平均世帯人員が少ない原因は、 」という語句に続けて書き、文末の「 」にあると考えられます。という語句につながる一文となるように書くこと。

② 書き出しと文末の語句の間の文字数が二十五字以上三十五字以内となるように書くこと。

③ グラフと資料からそれぞれ読み取った内容に触れていること。

④ 「二世帯あたりの人数」「変化」という二つの語句を、どちらもそのまま用いること。

(問題は、これで終わりです。)